

2018年9月18日

株式会社小田急エージェンシー

## 『データマネジメント事業開発プロジェクト』を発足 グループ各社の保有するデータを活用した営業支援サービスを強化

株式会社小田急エージェンシー(本社：東京都新宿区、取締役社長：高成田 潔、以下小田急エージェンシー)では、需要の高まりを見せる「データマーケティング」への対応を強化すべく、「データマネジメント事業開発プロジェクト」を発足させました。

小田急エージェンシーは従来よりマーケティング・コミュニケーション専門会社としてお客様と常に寄り添い、ともに繁栄するベスト・パートナーを目指して活動しています。今回の取り組みはその一環としてデータドリブンの手法を活用し、デジタルマーケティング領域において小田急グループの新規事業の創造や既存事業でのイノベーション実現に繋げることを目的としています。これは、小田急グループの掲げる「長期ビジョン 2020 (未来フィールド)」に則した、新しい価値提供のための取り組みでもあります。

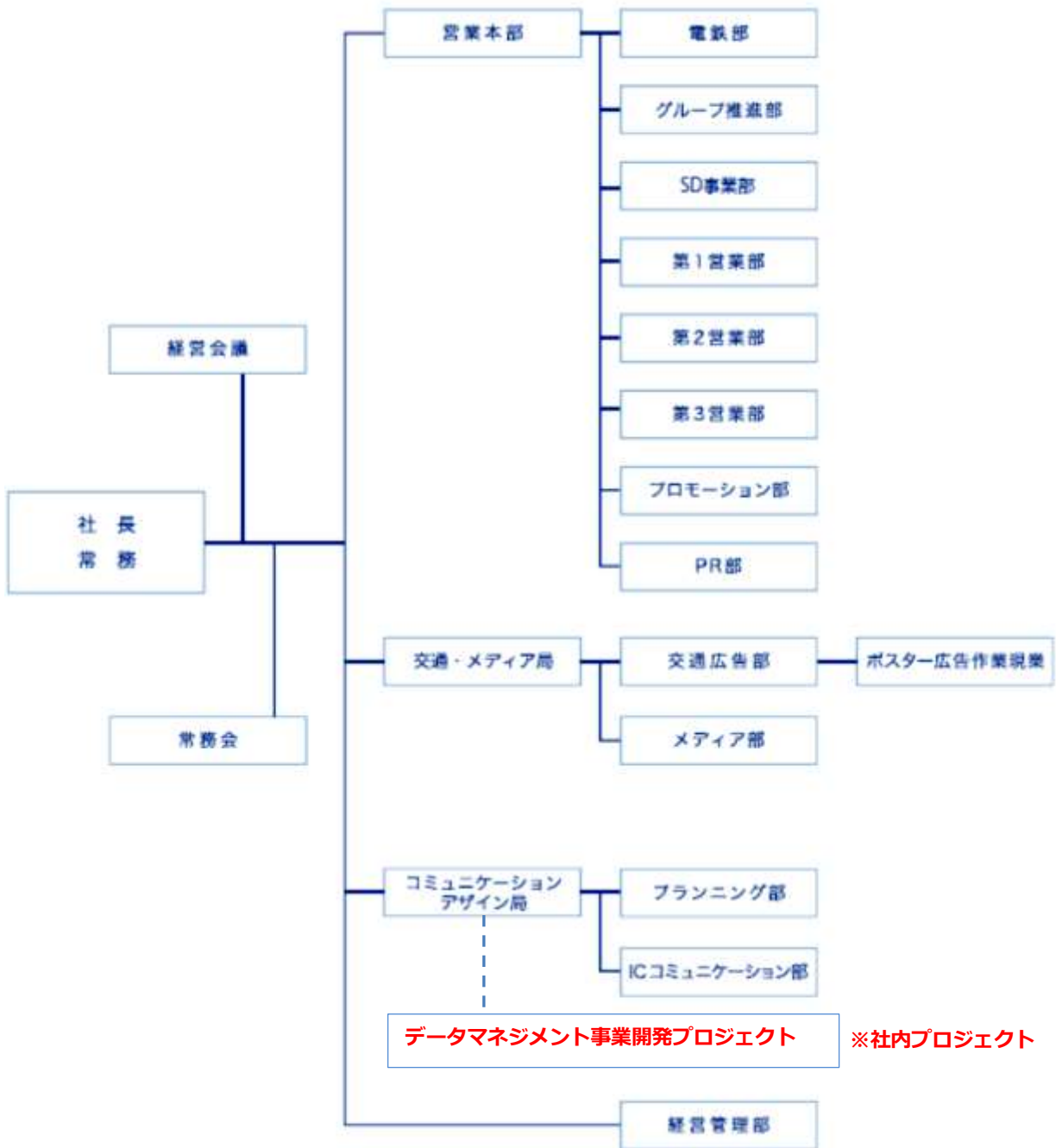
今後はすでに当社独自に導入している DMP(データマネジメントプラットフォーム)を活用したデータ分析やプロモーションを通じた実証実験などを通じてグループ各社等の事業開発支援に取り組めます。

本プロジェクトの詳細は下記のとおりです。

### 記

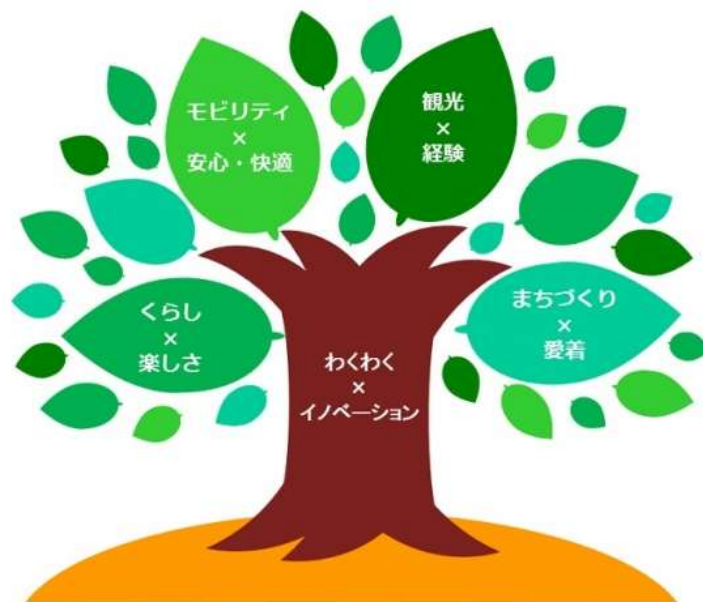
1. 名 称 データマネジメント事業開発プロジェクト
2. 発 足 日 2018年9月16日
3. 活 動 概 要 小田急グループのデジタルマーケティング分野においてデータドリブンマーケティングの手法を用いて新たな提案・業務支援を行う
4. 要 員 18名  
プロジェクトリーダー：常務取締役コミュニケーションデザイン局長 八木慎一  
構成部署：プランニング部、ICコミュニケーション部、電鉄部、グループ推進部

## 5. 本プロジェクトの位置づけ



### 【参考】小田急グループの掲げる「未来フィールド」について

「未来フィールド」は、これから蒔き育てる成長の種がやがて太い幹となり、その先に豊かな葉が広がる未来を思い描きながら、小田急グループのありたい姿を表したものです。4つの葉は「お客さまや社会にどのような価値を生み出していきたいのか」、幹は「そのために自らがどのような組織でありたいか」を示しています。（下図参照）



**根幹である「わくわく×イノベーション」をグループ各社が実現するため、各社の保有するデータを活用した営業支援サービスの構築に小田急エージェンシーは取り組みます**

以上